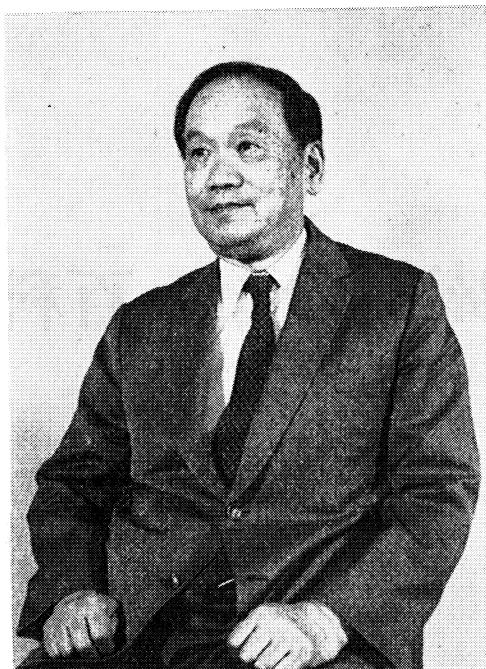


はる なつ あき ふゆ



文化功勞者

高橋信次

情報量の増加

宇宙が大爆発で生まれてから、地球上に生物の原基が誕生するのに長い時間を要したが、蠕虫が出現し爬虫類からヒトが進化してゆく遂展は加速度的に進んだようである。はじめチヨロチヨロ、あとパッペのこの加速度のパターンはどうもいろいろのところでみられる。

X線が発見されたのは、一八九五年（明治二十八年の暮れ）であった。それまで身体内部の病巣を見る術はなかつたので、この発見は大変期待された。しかし、医療への応用は今のようになくなんになるにはやはり時間が必要だった。胸部の診断に広く用いられるには、発見後三十年もかかっている。私が子供の頃は、三郡共立病院（福島医大の前身）でも、大原病院でも使つてゐるX線検査装置は原始的なものであつた。それは機械整流でやかましく、高压の裸線からは暗室なのでコロナ放電が妖しく光り、危険な代物であつた。私が医師になつた頃は、こんな状態であつた。

放射線医の私は、故障を直すのに配電盤を開けて配線を追いながら修理したものだ。当時はそれができたような単純なものだつた。したがつて私の研究は、敗戦直後の青森で手製で組み立てた装置で始まつたくらいである。